

問合せ 総務課防災安全室 ☎ 47-18000

9月1日は防災の日

9月1日は、1923年（大正12年）に「関東大震災」が起きた日に当たります。

また、この日は、立春から数えて210日目に当たり、昔から台風など災害が多い日だと言われています。

広く国民に、地震や台風・大雨などの災害について認識を深めていただき、また、防災に対する心構えを持っていただくため、国では9月1日を「防災の日」として定め、この日を含む8月30日から9月5日までの1週間を「防災週間」として定めています。

近年、全国各地で局地的大雨により、多くの被害が出ています。

災害から自分自身や家族を守るためには、日頃からの備えが重要です。「防災の日」及び「防災週間」をきっかけに、家族で災害への備えについて話し合ってみましょう。

お知らせ

南越前町防災訓練を11月17日(日)に予定しています。詳細は、決まり次第お知らせします。

町からの避難情報等伝達の手段

避難情報等を住民の皆さんにいち早くお知らせするために様々な方法で伝達します。

- 防災行政無線等による伝達
- 広報車による伝達
- エリアメール
- NTTドコモ、KDDI、ソフトバンクによる伝達
- IP告知器による伝達
- ケーブルテレビによる伝達

めちぜんレポート (南越前町地域おこし協力隊活動報告書)

「南越前町のここが好き」パート2

先月号に引き続き、都市目線・若者目線で、南越前町の良いところをピックアップ。

★至る所に伝統文化や史跡がある

関西方面から木ノ芽峠を越えると、まず最初に辿りつくのはここ南越前の地。それゆえ、いまの南越前町にあたる地域は太古の昔より交通の要衝として、歴史のページにそれぞれ地域の名を刻んできました。かの紫式部、新田義貞、そして坂本竜馬といった著名な人物たちもこの地に足跡を残していったと伝わっています。この足跡へ自らの足を重ねると、悠然たる歴史と現在へ到るその因果に、自然と思いを馳せていきます。

歴史的、文化的にみた南越前町の魅力は、あらゆる時代を幅広くカバーできるところにあります。ホノケ山の“のろし台”は遥か縄文時代から存在していたのではないとも言われ、また昭和時代に目を向けると、鉄道の町として発展していた今庄を思い起こします。

歴史と聞いて、「戦国」や「幕末」という、ある一つの時代を語るというイメージを私は持っていますが、その意味でも南越前町はあらゆる時代の受け皿となりうるポテンシャルを堅持しているのではないのでしょうか。

また、南越前町には趣のあるお寺や神社、古い民家や蔵、建造物が町の至る所に点在しています。この点も、長い歴史に裏打ちされた文化の結晶であると言えるでしょう。それら結晶は、受容する者によって価値が変わるものであり、訪れた者はまるで自分だけの宝を探すかのように、歴史や文化を求めて町内を周遊することができます。思うに、何かに縛られながらここを訪れるのではなく、自らの手で自由に目的を組み立てながら訪れる、そんな探訪の仕方がこれからの歴史訪問のひとつのありかたとなりうるのではないのでしょうか。そして、そんな彼らを迎える我々町民もまた、悠久の歴史の1ページ、なのかもしれません。



▲旧春日野隧道(現在は武生トンネルに取って代わられている)河野側坑口に残る源慶永(福井藩主・松平春嶽)書『賛化阜財』の扁額



▲南条文雄師をはじめとした浄土真宗の碩学を次々と輩出した憶念寺(金粕)



▲今庄宿を隈なく街歩きする地域住民および福井大学の学生ら